

## 2026年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(1)

授業科目(担当教員)	講義概要
日本 理解 専攻	<p style="text-align: center;"><b>コミュニケーション論</b></p> <p style="text-align: center;">(清水 聖子)</p> <p>「日本語教師養成サポートプログラム」必修科目。日本語教師として学習者と関わるために必要なコミュニケーション能力向上と学習者の日本語コミュニケーションをどのように伸ばすべきかの知見を得る。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>国際協力学</b></p> <p style="text-align: center;">(梶原 健嗣)</p> <p>戦後の国際関係, 国連を中心に学ぶことで, 国際社会の相互依存・関係を学習する。本講義の学習を通じて, 今日の国際社会の様々な問題点を体系的に理解して欲しい。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>ことばと社会</b></p> <p style="text-align: center;">(部田 和美)</p> <p>前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め, 関連記事や資料等を読み, 内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は, 学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び, より深く掘り下げ, 個人発表を行う。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>日本史学概論</b></p> <p style="text-align: center;">(梶原 健嗣)</p> <p>本講義は, 日本の近現代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を, 政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり, 教養レベルとして必須の事項を概説する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>歴史と現代</b></p> <p style="text-align: center;">(梶原 健嗣)</p> <p>地域は, それぞれの個性がある。それは歴史の歩みのなかで形作られたものである。それを 歴史と現状の理解を通じて学び, 日本社会の多様性を理解していく。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>日本語の音声と語彙</b></p> <p style="text-align: center;">(部田 和美)</p> <p>音声学, 音韻論, 形態論の理論に基づき, 日本語の音声や語彙の特徴について学ぶ。音声, 音韻に関しては, 他言語と比較し, 日本語学習者が日本語の発音を学ぶ上での困難点について考える。また, 語彙は主に日本語の語構成や意味について学ぶ。「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>地理学概論</b></p> <p style="text-align: center;">(石毛 一郎)</p> <p>言語, 宗教, 政治経済といった様々な事象をキーワードとして, 地理学的な考え方について学ぶ。とくに文化に関する多様な側面に焦点を当て, それらがどのように形成・変容してきたかを考える。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>日本と国際社会</b></p> <p style="text-align: center;">(梶原 健嗣)</p> <p>日本と世界の関わりを, 地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は, いずれも日本と関わりの深い主要国であり, その地誌, 歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>日本研究</b></p> <p style="text-align: center;">(石毛 一郎)</p> <p>今日の様々な社会問題へアプローチする土台として, 産業活動の側面から日本の地域システムと諸地域の変貌を考える。受講人数によっては実施方法を調整する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>地域文化と観光</b></p> <p style="text-align: center;">(吉元 菜々子)</p> <p>観光は私たちにとってごく身近な娯楽となった一方, それがもたらす弊害——環境破壊, 生活環境の悪化, 利益の不平等配分, 伝統文化の崩壊など——についても指摘されている。本授業では, 観光による弊害への反省のもと登場した「持続可能な観光」について, 日本や世界の具体的な事例とともに学び, 地域コミュニティによる主体的な観光運営の可能性について探る。</p>

## 2026年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(2)

授業科目(担当教員)		講義概要
日本 理解 専攻	<b>第二言語習得論</b> (清水 聖子)	「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。言語理解の過程と言語習得・発達について学ぶ。
	<b>観光産業論</b> (吉元 菜々子)	観光は社会的な現象であり、それ単独では理解できず幅広い社会理解が必要となる。本授業では観光について、それを取り巻くより広い領域との関連で捉えることで、観光とわたしたちの生活世界との関係性を探り、現代社会の理解を深める。
心理 ・ 生活 専攻	<b>介護福祉論</b> (鈴木 智子)	高齢者福祉の歴史と法制度の変遷をたどり、自立支援やノーマライゼーションの理念を学ぶ。加齢による心身の変化や認知症への理解を深めるほか、介護保険制度や地域包括ケアシステムの現状を分析する。さらに、演習・ロールプレイを通じ、実践的な支援のあり方を探求する。
	<b>認知心理学</b> (佐久間 直人)	認知心理学とは、心の仕組み・機構を論理的に解明する学問であり、比較的新しい領域でありながら、今やほとんど全ての心理学に影響を与えている。本講義では、認知心理学の代表的なトピックとされるいくつかの題材を学ぶとともに、それらを通して、手法としての認知心理学を学ぶ。
	<b>心理学研究法Ⅱ</b> (佐久間 直人)	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法Ⅱではテキストの8章から14章にある、データの分析・解析の方法および研究のまとめ方をとりあげる。
	<b>社会心理学Ⅱ</b> (原島 雅之)	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。
	<b>性格心理学</b> (原島 雅之)	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういふものを説明することはなかなか難しい。本講義では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。
	<b>食品衛生学</b> (市川 遥夏)	食品の安全、食品衛生法と関連法規および食中毒・食品媒介感染症・食品添加物・食品汚染物質などについて学ぶ。それに関する多くの事例を挙げながら解説する。
	<b>食品機能学</b> (市川 遥夏)	食品の一次機能(栄養性)、二次機能(嗜好性)、三次機能(生体調節機能)について解説し、特に生体調節機能にかかわる食品、食品成分、その効果およびその作用機序などについて説明する。

## 2026年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(3)

授業科目(担当教員)	講義概要	
心理・生活専攻	<p style="text-align: center;"><b>心理学概論</b></p> <p style="text-align: center;">(中村 博子)</p>	<p>心理学の基礎的分野を幅広く講義を中心に学び、簡単な体験やディスカッションを通じて、様々な角度から心のはたらきについて考察する。心理学がどのような方法で人間の「心」に迫ろうと試みてきたか、そしてその試みを通じて何が明らかになってきたかについて学ぶ。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>発達心理学</b></p> <p style="text-align: center;">(中村 博子)</p>	<p>人間の生涯を通じて、胎児期から老年期に至る各時期の発達の特徴を、主要な理論に基づいて理解することを目的とする。あわせて、自分と他者、社会との関係の中で形成されていく自己の発達を生涯発達の視点から考察する。また、発達に関わる社会的課題として「虐待」や「発達障害」を取り上げ、実際の事例をもとに、その理解の視点や課題について検討する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>地域福祉論</b></p> <p style="text-align: center;">(鈴木 智子)</p>	<p>地域社会の変化を背景に、社会的孤立・社会的排除を克服する「地域共生社会」の理念と実践を学ぶ。住民、NPO、社会福祉協議会等の多様な主体による協働や、社会資源の開発、多職種連携の重要性を理解する。実務者講話等、生きた実践知にふれながら、災害支援やマイノリティとの共生といった現代的課題に対し、実効性のある支援策を多角的に考察する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>生活科学概論Ⅱ</b></p> <p style="text-align: center;">(市川 遥夏)</p>	<p>衣・住と生活に加え、香料と生活、森林浴と環境、化粧品の科学など現代の生活に密接に関係する課題について解説し、実生活にどう生かすかを説明する。</p>
地域共生専攻	<p style="text-align: center;"><b>現代の経済</b></p> <p style="text-align: center;">(中村 壘)</p>	<p>消費者や企業の行動、市場メカニズムの動きを説明するミクロ経済学と、経済全体の動きを把握し、政府の経済政策のあり方を議論するマクロ経済学の基本について学ぶ。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>グローバルヒストリー概論</b></p> <p style="text-align: center;">(中村 壘)</p>	<p>今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>生涯学習論</b></p> <p style="text-align: center;">(太田和 良幸)</p>	<p>本講義では、生涯にわたり学び続けることの意義と、その基盤となる社会的・制度的枠組みについて多角的に学ぶ。デジタル時代の学習環境など、現代の生涯学習を取り巻く課題と可能性を総合的に理解することを目的とする。また、学生自身が「自ら学び続ける力」を育む契機とする。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>食と農の歴史</b></p> <p style="text-align: center;">(中村 壘)</p>	<p>当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。</p>

## 2026年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(4)

	授業科目(担当教員)	講義概要
地域共生専攻	<b>社会と法律</b> (太田和 良幸)	社会における法の役割を理解するとともに、日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、具体的事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。
	<b>地域社会論</b> (石毛 一郎)	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。あわせて、異文化理解の観点や地域政策との関連も考察する。
	<b>ちばの歴史</b> (中村 塑)	協同組合は人間らしい生き方・労働を追求する組織といわれ、今後めざすべき経済の姿との見方もある。本授業では主に千葉県における協同組合の歴史に注目し、協同組合の起源や近代以降の展開について講義する。
	<b>まちづくり論</b> (岡庭 義行)	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」とともにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。
	<b>公共政策学</b> (岡庭 義行)	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。
ビジネス専攻	<b>原価計算論</b> (呉 鳶)	原価計算は、製品やサービスの原価を把握し、経営計画や意思決定を支える重要な管理会計システムであり、現代の経済社会を適切に運営するために不可欠な役割を果たしている。本講義では、原価計算モデルの基本的な特徴や原価計算制度の基本構造について体系的に学習するとともに、実際の事例や計算問題を通じて、その応用力を養成する。
	<b>ビジネス情報学</b> (大屋 伸彦)	本講義は変化の激しい情報化社会に対応するために必要な情報リテラシーとデータサイエンスの基礎を身につけることを目的とする。
	<b>基礎統計学</b> (大屋 伸彦)	学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学の重要性が増している。古典的な推測統計学の基礎を学ぶとともに、手法を駆使するようにExcelを用いて記述統計学から初歩的な推測統計学を学ぶ。
	<b>会計学概論</b> (呉 鳶)	企業会計は、企業の経営活動を数値で可視化し、意思決定を支える重要な役割を担っている。企業会計の基礎理論を学ぶと同時に、演習問題を中心とした実践的学習を通じて、会計処理の流れや財務情報の理解力を養う。

## 2026年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(5)

授業科目(担当教員)	講義概要
<b>ビジネス専攻</b>	<p style="text-align: center;"><b>自然科学と経済社会</b></p> <p style="text-align: center;">(呉 鳶)</p> <p>自然科学の進歩は、人間の生活様式や生産活動をはじめ、経済・社会の構造、さらには自然環境に至るまで、広範かつ深甚な影響を及ぼしてきた。本講義では、自然科学が人間活動および自然環境に及ぼす影響のメカニズムを多角的に理解するとともに、その進歩がもたらしてきた正負両側面を批判的に考察するための基礎的視座を涵養する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>マーケティング論</b></p> <p style="text-align: center;">(中野 慶昭)</p> <p>マーケティングの基本概念(4P・4C・市場分析・競争戦略など)を体系的に学ぶ。本授業では、話し合い学習法を取り入れ、事前課題で得た知識をもとに、授業内での対話・協働を通して理解を深める。学生は主体的に調べ、話し合い、協力しながらマーケティングの基礎を学ぶ。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>情報科学概論</b></p> <p style="text-align: center;">(日坂 彰)</p> <p>情報科学概論は、情報科学の基礎やコンピュータやインターネットの仕組み及び原理を学習する。特に、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアについて、その詳細を学習する。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>プログラミング基礎</b></p> <p style="text-align: center;">(日坂 彰)</p> <p>本講義では普及度や実用性の高いプログラミング言語を用いて、プログラミングの基本的な構文と動作に関する演習を行う。</p>